

はせさんず

2016 冬号 NO.76

三ノス

2016年11月22日 (火) 発行
 認定NPO法人 大田はせさんず
 たすけあい 理事長 佐藤 悟
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず (会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

はせさんずの非営利活動をあらためてご案内します

★会員制 たすけあい活動

「ずっとこの街で暮らしたい、その願いのために」をモットーに続けてきた、高齢者や障害のある人などの在宅生活を支援する活動。手助けを必要とする人(利用者)も、手がけることができる人(活動者)も、はせさんずの会員となって、市民同士で助け合う有償ボランティアです。

介護保険などの公的サービスを利用できない人に対して、利用者の自宅で掃除、洗濯、買い物、食事作りなどの家事をしたり、外出を介助したりします。活動者は必ずしもヘルパース資格はありませんが、安心して自宅に住み続けるために、利用者が困っているところをお手伝いします。

また、公共の交通機関では移動が困難な利用者を、活動者が運転する自動車で病院や施設へ送迎する移送サービス(福祉有償運送)は、国土交通省と大田区で認可された活動です。2008年には「24時間サービス」から福祉車両が寄付されました。女性も男性も移送活動に活躍しています。

「寄付をお願いします」

たすけあい活動など非営利事業を続けるには資金が必要で、活動費の一部は皆様から寄付で賄われています。

はせさんずは2014年に認定NPOとなったので、寄付者には寄付金控除がおります(賛助会員の年会費も寄付扱いです)。



「福祉有償運送」のステッカーを貼った自動車と移送サービス活動者

はせさんずの理念に賛同し、活動を支援してください。活動費は同年会費3000円。機関誌「百日草」や「はせさんずニュース」などで活動状況をお知らせします。

お問い合わせは矢嶋、大澤

★元氣 かい

高齢者がいつまでも元気に過ごせるように、要介護の状態になる前の予防対策活動として2001年に設立。「地域の高齢者仲間とふれあい、相互扶助をしながら」「残された人生をよりいきいきと豊かにする」ことを目的としています。



健康麻雀

地域社会への参加促進を図り、交流を推進します。

(2) サークル活動
 (調布、蒲田、大森、糀谷・羽田)の地域健康課が実施する保育付講座のグループ保育があります。2016年度は99回を生かして、高齢者自らが企画し運営したり、一緒におもちゃで遊んだり、大忙し。ママとパパ、イして夢中になって遊んでいる子や、楽しく遊んでいると思ったら急にママを思い出し、たか「ママ、ママ」と泣き指さす子や、さまざまなおもちゃを手にしています。

歌のついで、健康麻雀、英語サークルとさまざま。(1) ふれあい活動
 月2回の定例会として、健康体操(太極拳)と引き続きの昼食会を実施し、家に閉じこもりがちな高齢者の

★市民後見

はせさんずでは任意後見を推進しています。法人で引き受けます。講座修了生に見守り活動を担っていただきます。今のところ見守り活動3件、死後事務1件、準備中1件という受任状況です。

ノートの記入は、自分のこれからの人生についての意思を確認するための準備です。使ってみて、自分の時に遺言書も作成することができ、公証役場では同年会費3000円。機関誌「百日草」や「はせさんずニュース」などで活動状況をお知らせします。



出前講座

『成年後見準備ノート』わたしの「これから」出版から3年、この冊子が市販されています。本の種出版の尽力で紀伊國屋書店、ジュンク堂などに置かれています。アマゾンにも出ています。

ノートの記入は、自分のこれからの人生についての意思を確認するための準備です。使ってみて、自分の時に遺言書も作成することができ、公証役場では同年会費3000円。機関誌「百日草」や「はせさんずニュース」などで活動状況をお知らせします。

★保育1 グループ保育

大田区の4つの地域庁舎(調布、蒲田、大森、糀谷・羽田)の地域健康課が実施する保育付講座のグループ保育があります。2016年度は99回を生かして、高齢者自らが企画し運営したり、一緒におもちゃで遊んだり、大忙し。ママとパパ、イして夢中になって遊んでいる子や、楽しく遊んでいると思ったら急にママを思い出し、たか「ママ、ママ」と泣き指さす子や、さまざまなおもちゃを手にしています。

★保育2 在宅訪問保育

利用者の自宅に訪問するすけあい活動では、新米ママの話し相手や産後のお手伝いなどの依頼もあります。初産の心細さに寄り添い、家事を手伝いながら話し相手をするだけでずいぶん安心なようです。今後は、産後ケアや、在宅保育の依頼も増えると思われまますので、対応できる体制を整えていく予定です。子どもと一緒に活動できる活動会員が増えるのを願っています。

保育ヘルパース募集中心
 お問い合わせは 栗田、機敏 ください。

